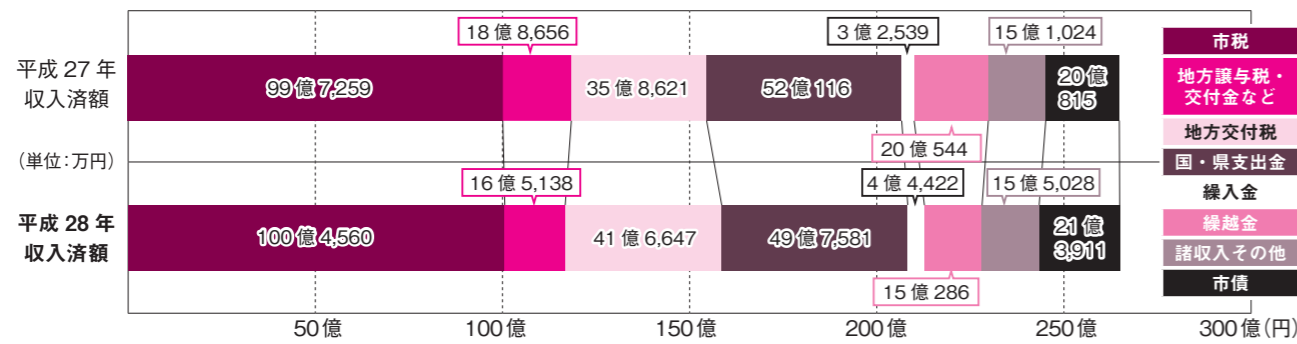
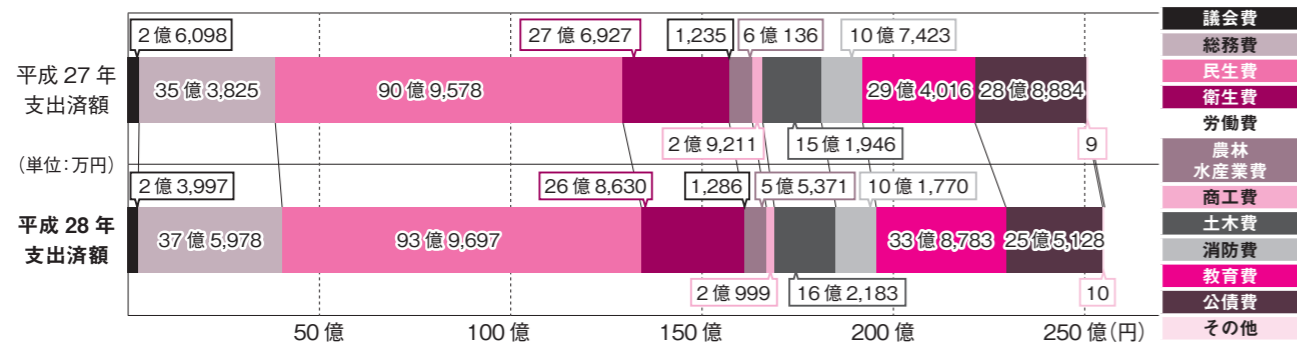


一般会計歳入の状況



| | |
|--------------------|---|
| 市税 | 給与所得の増などによる個人所得割の増収や、家屋新築による固定資産税家屋分の増収、設備投資の増による固定資産税償却資産分の増収などにより、市税全体では 7,301 万円の増収となり、2 年ぶりに 100 億円を超えることができました。 |
| 地方譲与税・交付金など | 消費回復の遅れにより、地方消費税交付金が 1 億 3,421 万円の大幅減となるなど、全体でも 2 億 3,518 万円の大幅な減収となりました。 |
| 地方交付税 | 普通交付税が 4,825 万円の減となりましたが、震災復興特別交付税について、龍ヶ崎地方塵芥処理組合の大規模改修工事に対する負担金が対象となったことで 6 億 6,825 万円の増となり、全体では 5 億 8,026 万円の増収となりました。 |
| 国・県支出金 | 前年度にあった大型プレミアム商品券の財源であった地域住民生活等緊急支援交付金の減や生活保護費負担金の減などに伴い 2 億 2,535 万円の減収となりました。 |
| 諸収入その他 | ふるさと龍ヶ崎応援寄附金が大幅増となり、全体では 4,004 万円の増収となりました。 |
| 市債 | 地方交付税の代替措置である臨時財政対策債（特例債）が 2 億 2,053 万円の減となったものの、たつのこフィールドバックスタンド・照明塔建設に伴う体育施設整備事業債 3 億 2,620 万円の増や、庁舎新附属棟建設事業債 1 億 4,200 万円の増などにより、全体では 1 億 3,100 万円の増収となりました。 |

一般会計歳出の状況



| | |
|------------|---|
| 総務費 | 庁舎新附属棟建設事業 2 億 2,334 万円の増、市民交流プラザ改修工事 5,373 万円の増などにより、全体では 2 億 2,153 万円の増加となっています。 |
| 民生費 | 歳出全体の 3 分の 1 以上を占めており、3 億 119 万円の増加となっています。所得の少ない高齢者を支援するため創設された、年金生活者等支援臨時福祉給付金給付事業 1 億 7,041 万円の増や、後期高齢者医療事業特別会計への繰越金 6,366 万円の増が主な要因となっています。 |
| 教育費 | たつのこフィールドバックスタンド・照明塔建設工事の実施による 3 億 239 万円の増、歴史民俗資料館外壁・屋根改修工事 6,146 万円の増などに伴い、4 億 4,767 万円の大幅な増加となりました。 |
| 公債費 | 平成 13 年度地域総合整備資金貸付事業（総合病院）の償還終了など、償還が進んだことにより、3 億 3,756 万円の減少となっています。 |

平成 28 年度決算は、市税収入が 100 億円を超えたものの、普通交付税や地方消費税交付金などの一般財源が大幅な減収となっています。また、社会保障関係費の増などにより経常経費も増加しており、決算状況としては、昨年度より厳しい状況と言えます。そのような中でも、今後、道の駅整備事業や新学校給食センター整備事業、公共施設の計画的な更新などが予定されています。これらの事業の財源を担保するため、事務事業の効率化などによる経常経費の削減に努めるとともに、基金への積み立てなど自主財源の確保を図りながら、「持続可能な財政基盤の構築」に向けて財政健全化をさらに進めていきます。

平成 28 年度決算の状況をお知らせします

■問い合わせ：財政課財政グループ ☎内線 359

平成 28 年度決算の収支状況は、昨年度より黒字幅が減少したものの安定した状況にあり、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」による判定も「健全段階」となっています。

決算総括

●平成 28 年度決算総括【表①】

(単位:万円)

| 会計別 | 歳入 | 歳出 | 形式収支(差引) | 繰越財源 | 実質収支 |
|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|-------------------|
| 一般会計 | 264 億 7,573 | 254 億 3,832 | 10 億 3,741 | 1 億 1,508 | 9 億 2,233 |
| 特別会計合計 | 173 億 3,116 | 170 億 8,260 | 2 億 4,856 | 988 | 2 億 3,868 |
| 国民健康保険事業特別会計 | 90 億 3,489 | 88 億 4,307 | 1 億 9,182 | 0 | 1 億 9,182 |
| 公共下水道事業特別会計 | 22 億 5,066 | 22 億 3,934 | 1,132 | 988 | 144 |
| 農業集落排水事業特別会計 | 6,319 | 6,291 | 27 | 0 | 27 |
| 介護保険事業特別会計 | 46 億 8,948 | 46 億 4,605 | 4,342 | 0 | 4,342 |
| 障がい児支援サービス事業特別会計 | 3,633 | 3,631 | 1 | 0 | 1 |
| 後期高齢者医療事業特別会計 | 12 億 3,182 | 12 億 3,011 | 171 | 0 | 171 |
| 介護サービス事業特別会計 | 2,480 | 2,480 | 0 | 0 | 0 |
| 総合計 | 438 億 688 | 425 億 2,092 | 128 億 5,967 | 1 億 2,496 | 11 億 6,101 |

※各項目の数値は実数をそれぞれ四捨五入したものであり、合計欄や差引欄の数値が表内の計算結果と一致しないことがあります

平成 28 年度の決算規模は、一般会計で歳入が 264 億 7,573 万円、歳出が 254 億 3,832 万円、差引 10 億 3,741 万円です。形式収支(歳入歳出差引額)から翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支(純粋黒字額)は、9 億 2,233 万円となっています。【表①】

当初予定していた財源調整のための基金繰入れ(預金の取り崩し)が不要となった上、将来の施設の更新需要に備え、公共施設維持整備基金に 2 億円・義務教育施設整備基金に 2 億円を積み立てることができました。また、ふるさと龍ヶ崎応援寄附金が大幅増となり、みらい育成基金に 2 億 4,725 万円積み立てました。

経常収支比率※【表②】は、昨年度の 90.1% から 93.8% と、3.7 ポイント上昇しました。これは、地方消費税交付金の減収などに伴う経常一般財源の減少が主な要因です。「龍ヶ崎市財政運営の基本指針等に関する条例」で定める目標値(90.0%)の達成には至らず、引き続き財政健全化の取り組みが必要です。

●経常収支比率の状況【表②】

| | 平成 28 年度 | 平成 27 年度 | 比較 |
|--------|----------|----------|-----------|
| 経常収支比率 | 93.8% | 90.1% | +3.7 ポイント |

※市税・普通交付税を中心とする毎年度定期的に収入される一般財源(経常一般財源)が、人件費・扶助費・公債費のように毎年度定期的に支出される経費(経常的経費)にどの程度充当されているかという割合で、この数値が低いほど、財政構造に弾力性がある(余裕がある)ことを表します

健全化判断比率・資金不足比率

平成 28 年度決算に基づく「健全化判断比率」※は、黒字決算のため実質赤字比率および連結実質赤字比率は算出されません。実質公債費比率は 4.4% (前年度比 -1.4 ポイント) に改善し、将来負担比率は将来負担額を充当可能財源が上回ったため算出されませんでした。公営企業会計も黒字決算のため資金不足比率は算出されず、法律上も健全段階となっています。

※「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」(財政健全化法)の規定により、決算に基づく「健全化判断比率」「資金不足比率」の算定・公表が義務付けられています

●健全化判断比率の状況【表③】

| 区分 | 健全化判断比率 | 早期健全化基準 | 財政再生基準 |
|----------|---------|---------|--------|
| 実質赤字比率 | — | 12.78% | 20.00% |
| 連結実質赤字比率 | — | 17.78% | 30.00% |
| 実質公債費比率 | 4.4% | 25.0% | 35.00% |
| 将来負担比率 | — | 350.0% | — |

●資金不足比率の状況【表④】

| 会計名 | 事業規模(万円) | 資金不足額 | 資金不足比率 | 経営健全化基準 |
|--------------|------------|-------|--------|---------|
| 公共下水道事業特別会計 | 11 億 8,136 | — | — | 20% |
| 農業集落排水事業特別会計 | 371 | — | — | 20% |